

HAKODATE

YOKOHAMA

KOBE

NAGASAKI

NIIGATA



開港5都市 景観まちづくり会議・新潟大会

◆日程/2012年10月26日(金)・27日(土)・28日(日) (H24)

◆会場/新潟市民プラザ(26日)、他市内会場

◆主催/開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会 ◆協力/新潟商工会議所

◆参加者/開港5都市(函館市・横浜市・神戸市・長崎市・新潟市)の景観まちづくり市民団体・一般参加者

開催記録

NIIGATA

第18回開港5都市景観まちづくり会議新潟大会を迎えるにあたって、長崎大会後、約半年近くかけて皆で考えた『新潟の「らしさ」を求めて～過去・現在・未来へのつながり～』をテーマに他の4港と違い、歴史のストックの薄いここ新潟の持っている「らしさ」をもう一度参加者全員で検証しようと新潟市発祥の一方の地区、古町地区を中心に開催いたしました。

今回は基調講演で長年お一人で調査、翻訳をされてこられた青柳正俊氏から「開港場・新潟からの報告」をお願いし、新たに横浜をはじめ他都市との繋がりやの再発見もありました。私どもが普段見慣れた景観が他都市の方々にはどのように感じられたのかや不安もありましたが、こちらの想像以上に皆さまから受け入れていただけたようでしたし、私ども地元関係者も新潟が持っている「らしさ」に新たな認識がありました。

また他方では新たに若い方々の参加も増え、この会議の未来へのつながりに対し希望が持てる大会となりました。

ここに、この新潟大会を支えてくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会
実行委員長 本間龍夫

INDEX

大会スケジュール	1P
全体会議Ⅰ	2P
ウェルカムパーティー	6P
分科会1	8P
分科会2	10P
分科会3	12P
オプションツアー	14P
代表者会議	15P
全体会議Ⅱ	16P
大会宣言	17P
開港5都市景観まちづくり会議の歌	18P
おわりに	20P
参加団体リスト	21P

26日(金曜日)

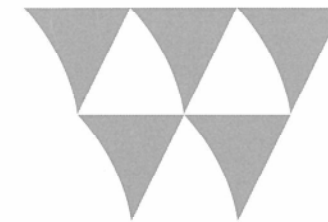
- 13:30～ 受付開始 会場／新潟市民プラザ
 14:00～16:30 全体会議Ⅰ
 開会式
 基調講演「開港場・新潟からの報告 ～イギリス外交官が伝えたこと～」
 青柳正俊氏
 各都市からの報告
- 18:00～20:00 ウェルカムパーティー
 (受付/17:30～) 会場／鍋茶屋

27日(土曜日)

- | | | |
|---|---|--|
| <p>分科会1
「米が奏でる景観」を探る
見学／新潟せんべい王国・
芦沼館・今代司酒造</p> <p>集合／万代シティバスセンター
 受付／9:15
 時間／9:30～16:00</p> | <p>分科会2
湊町新潟と花街の文化を
訪ねて
見学／鍋茶屋・行形亭・
旧齋藤家別邸ほか</p> <p>集合／鍋茶屋前
 受付／8:45
 時間／9:00～16:00</p> | <p>分科会3
水と土との共生から生まれた
暮らしと文化
見学／小須戸・巻の街並み
カーブドッチワイナリー・
万代島旧水揚場ほか</p> <p>集合／万代シティバスセンター
 受付／8:45
 時間／9:00～16:30</p> |
|---|---|--|
- 18:00～20:00 オプションツアー
 ～うまさぎっしり ピアBandai 食の陣～
 会場／ピアBandai

28日(日曜日)

- 9:15～9:50 代表者会議
 会場／旧第四銀行住吉町支店会議室
- 10:15～11:30 全体会議Ⅱ
 (受付/9:45～) 会場／新潟市歴史博物館みなとびあセミナー室
 分科会報告
 代表者会議報告
 大会宣言
 大会旗引き継ぎ
 次回開催地代表者あいさつ
 主催者謝辞



2012.10.26～28



全体会議

■基調講演

『開港場・新潟からの報告—イギリス外交官が伝えたこと—』

青柳 正俊

私たちは、自分たちの町が開港五港の一つであったことをもちろん知っています。しかし、そこで実際に何が起こったかについては案外知りません。私はしばらく前に、開港当時の様子を知るうえで興味深い資料を見つけ出しました。当時新潟に駐在したイギリス外交官らが本国へ向けて綴った報告書です。この報告書には、これまで知られていない事実や、新潟港に対する意外な見方が豊富に散りばめられていました。そこで私は、このことを広く紹介したいと考え、これらの報告書を翻訳し、昨年、『開港場・新潟からの報告—イギリス外交官が伝えたこと—』と題して出版しました。本日は、この報告書に沿って、開港当時の新潟の港と町の様子を報告します。

新潟港の漠々たるポテンシャル

新潟は開港五港の中でもっとも遅く、1869年に開港しました。その歴史は、冬の日本海の荒波を越えてきた冒険的な外国商人の来訪に始まりました。初代イギリス領事が伝えたこのエピソードは、これまで地元でも知られていません。

この冒険的な商人の積荷は大きな損傷を受けましたが、まもなく始まった新潟での本格的な取引を、イギリス外交官はむしろかなり好意的に描いています。「港の周辺には生糸や茶の主要な産地がある。有望な鉱山も豊富にある。新潟は交易に適した町だ」と報告しています。意外なほど高い評価です。当時、新潟は北前船の寄港や沿岸との船の往来で太いに賑わっていました。河川で結ばれた内陸地方も含め、新潟港は大きなマーケットを持っていました。ハブ&スポークの、まさにハブだったのです。イギリス領事は「新潟が日本の主要な交易地の一つとならない理由などない。新潟港は日本の4分の1の輸出入を担う港」とまで表現しています。開港当時、イギリス外交官は新潟の地に漠々たるポテンシャルを見ていたのです。

隘路となった港、繁栄する町

しかしながら、新潟港は信濃川の河口にあり、川水が運んでくる土砂が堆積するために水深が浅く、大型船を用いた交易にはとても不便でした。開港直前の1867年にイギリス海軍が作成した海図を見ても、港のかなり沖の方でも水深は1m足らず。より小さな荷船に積荷を一度、二度と積み替えてようやく船着場で荷下しができる、という状態でした。

また、開港前年の戊辰戦争の傷跡は生々しく、しかも匱金の横行や国の通商政策の失敗などで経済が混乱していました。さらには税関・倉庫・灯台・作業船



青柳正俊氏

1960年(昭和35年)、新潟市生まれ。東京外国語大学ドイツ語学科卒業後、在ミュンヘン日本国総領事館副領事、新潟県庁国際課政策企画員を経て、現在は新潟県立歴史博物館副館長、新潟日独協会理事に就く。

など外国交易に必要な施設の整備が不十分でした。開港は江戸幕府が約束したものでしたが、戊辰戦争後にとって代わった明治新政府は、諸外国との条約を履行するために大急ぎで新潟港を開かざるを得なかったのです。

開港最初の2年は多くの外国船が他港経由でやってきたものの、先に述べた理由から交易は思うように展開せず、やがて大方の外国商人は新潟から去って行きました。

それでもイギリス外交官は、交易地としての新潟の評価を変えません。1874年の報告でも、「外国船の数は少ないが新潟は人口が増加し繁栄が続いている。港は相変わらずだが、このまま順調に発展すれば、新潟は遠からず日本の主要都市の一つになるはず」と伝えています。その頃の新潟では、本格的な文明開化策が繰り広げられていました。1872年に楠本正隆県令が着任して以来、町並みや運河、学校・病院・公園などの整備が進み、風俗も西洋風に改められていきました。ようやく政府も本腰を入れたのです。

しかし港の整備に限っては相変わらず進捗しませんでした。1876年にはいよいよ外国船が1隻も来ませんでした。イギリス外交官は「新潟港を改修するのか、それとも名目だけの存在にしてしまうのか。日本政府は、改修すれば更なる繁栄が見込まれるこの地域への投資をもっと考えるべきだ」と報告します。ところが、ちょうど同じ時期の日本の政府資料の一つには、大蔵省からの「経費削減のため新潟港を閉鎖すべきだ」との提案に対して、外務省が「それなら条約上、他の港を一つ開く必要があるが、どうするのだ」と応答しているやりとりが見いだせます。日本政府は、すでに新潟港を名目だけのものにするか決めていたのでしょうか。以降、延々と、まさに延々と、港の本格的な改修に手がつけられることはありませんでした。

一方で、イギリス外交官は町の繁栄を報告し続けます。まだ裏日本化が始まる前の時代です。外国交易の停滞とは裏腹に、港町新潟は今の私たちが想像する以上に繁栄していたようです。

開港場・新潟の終焉

イギリス外交官の評価もむなしく、新潟での外国交易は、特需のあった1878年を除いて沈みきったままでした。そして1879年にはイギリス領事館が閉鎖されました。さらには1885年、ついに新潟に居留する最後の西洋人商人が去って行きました。同じ年、イギリス外交官は、「新潟は外国交易港としてはすでに実質的に存在していません。新潟に居留する外国商人は一人もいません」と報告しました。開港場・新潟は、西洋人の目からは終わりを告げました。

まとめ

イギリス外交官の報告書をこうして読んでいくと、新潟港が外国交易港として発展しなかった理由について、いろいろと考えさせられます。

戦国の武将、上杉謙信が好んで用いたといわれる「天地人」という言葉になぞらえてみましょう。私は、何よりも開港のタイミングが悪すぎた、つまり「天の時」がなかったのだと思います。そしてまた、新潟には「地の利」もありませんでした。期待された「日本西海岸の開港場」としての役割を新潟港が発揮する方向へと、その後の日本の近代化は進みませんでした。国際定期航路は、太平洋側を東へ西へと進むルートで整備されていきました。新潟はハブ&スポークの、スポークの先の港の一つになりました。新潟には、「天の時」と「地の利」の2つが欠けていたのです。ただ、「人の和」はあった、と私は思います。当時の新潟の人たちは、何とか港改修を実現させよう、と一致協力して様々な努力をしています。このことだけはお伝えしておきたいと思います。

新潟の開港場としての歴史は決して輝かしくはありません。しかし現在、この町が日本海側の主要都市として大きく発展しているのは、「人の和」を大切にしてい町づくりに励んできた、これまでの先人たちのおかげだと思います。そして、今度は今に生きる私たちが、この会議での皆さんとの意見交換や情報交換などを通じて、明日の町づくりを考えていくということは、とても意味のあることだと思います。

函館市

函館の歴史的風土を守る会 佐々木馨 様

函館市では、昭和63年に景観条例を制定し、景観形成を進めてきました。それから20年が経過し、歴史的建造物も老朽化が進み、市民の景観に対する考え方も変容してきています。このような背景から、一昨年、景観条例の改正について検討を始め、改正された景観条例が今年の12月から施行する予定です。

私たちの「函館の歴史的風土を守る会」は来年で35周年を迎えます。会のスタート時は会員が180名程でしたが、現在は、高齢化等により、70名程度に減少しております。会では、月1回、運営委員会を開いて、色々なことを議論しています。市民に対しての啓発活動として、「歴風文化賞」という賞を創設し、建物を所有されている方や、個人・団体の懸賞を実施しています。さらに、函館らしい原風景を30ほど選定しています。また、会創設の節目には記念誌を作成しており、10年目はまちなみについて、20年目は会報をまとめた小冊子、30年目は函館の歴史と風土というテーマでとりまとめています。

最近の活動としては、五稜郭城址の世界遺産登録に向けた資料収集・勉強会、市民を対象とした、「見て聞いて考える町並み」の開催、旧戸井線アーチ橋の解体前見学会、函館周辺の旧民家の見学・勉強会、中学生に函館の景色の写真を撮ってもらう、「ふるさと写真展」の開催などを行っています。

横浜市

馬車道商店街協同組合 六川勝仁 様

横浜では慶応2年に大火があり、日本大通りは、この大火の後に防火帯の役割として新しく計画された道路です。ここでは、オープンカフェやイルミネーションを実施しています。また、開港150年の整備事業の一環として、横浜港発祥の地に「象の鼻地区」が整備されました。現在は、アーティストや音楽等の色々なイベントの場として活用されています。この「日本大通り・象の鼻地区」は平成23年度の都市景観大賞の大賞を受賞しました。

馬車道大通りも、慶応2年の大火の後に、外国人の居留区と日本人のまちを結ぶために計画された通りで、歴史的建造物が多く残っています。日本興亜馬車道ビルは、旧日本火災海上保険のビルを解体し、使える部材を再利用したもので、平成元年に完成し、「横浜市認定歴史的建造物」の第1号となっています。また、市役所では、緑のために活用しようと、平成21年から25年まで市民税を上乗せしており、馬車道でもこれを活用して「横浜みどりアップ計画」を実施しています。

また、馬車道にガス灯が灯った日であり、東京ガスのガスの記念日でもある10/31には、ガスライトフェスティバルを計画しています。馬車道にはガスライトが60基あり、山下公園には40基あり、これをつなぎガス灯プロムナードを作ろうと計画しています。このようなイベントを行うことで、万国橋に新たにガス灯が18基設置され、プロムナードの計画が少しずつ進んでいます。

神戸市

神戸市役所 橋田之宏 様

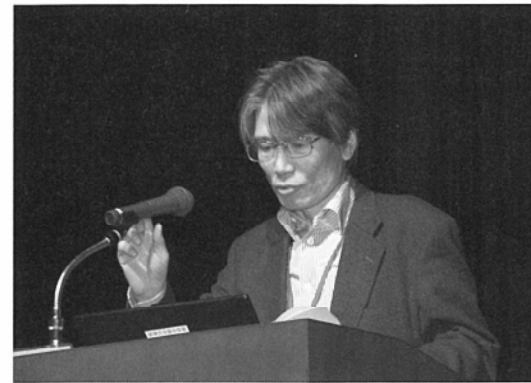
神戸では、平成5年に地域の景観形成に取り組む市民団体が、相互に情報交換することを目的に「景観形成市民団体連絡協議会」ができました。協議会は、



HAKODATE



YOKOHAMA



KOBE



NAGASAKI



NIIGATA

北野居留地地区、元町商店街、岡本商店街、有馬等12団体で構成されています。協議会では毎年、他都市の研修を行っています。他都市の研修として、去年は和歌山県の湯浅に行きました。

市民団体の最近の活動事例として、有馬地区では、昨年これからの景観まちづくりを担う人材を育成するために、まちづくりの専門家の協力を得て「神戸景観マネージャー養成講座」を開催しました。建物調査やワークショップを通して、景観まちづくりの手法について学びました。今年は、地区を変えて岡本で同様なことに取り組もうとしています。北の山元地区では、まちを一層魅力的にしていこうと有効な取り組みのアイデア募集を行い、その優秀作を選び、これからの町のあり方を考えるフォーラムを開催しました。

市役所の取り組みとしては、夜間景観形成実施計画を策定しました。今年の1月・2月には、実施計画を作るために、地域の方とまち歩きを実施し、ミーティングを行いました。

また、景観形成重要建築物を指定し、一定の条件を満たせば、建築基準法の適用除外を盛り込んで、保存と活用の両立を図っています。昨年、旧生糸検査所を建築基準法の適用を適用除外し、この秋、デザイン都市神戸の拠点「デザインクリエイティブセンター神戸」として生まれ変わりました。

長崎市

大浦青年会 桐野耕一 様

長崎は、まち歩きの町として定着しています。2006年の博覧会からこの取り組みが始まり、博覧会が終わってからも、いつでもまち歩きを行っています。

さるく以降、自分たちの町を見つめなおした時、この10年以降、町が大きく変わっていくことに気づきました。10年後には新幹線が通り、新しい駅が港の近くででき、長崎港周辺の整備が進みます。このことから、町のにぎわいが港の方に移っていき、まちなかは寂しくなっていくのではないかと、まちなかをもっと元気にしていかなければならないのではないかと考えました。

そこで、現在「まちぶらプロジェクト」というものを進めています。長崎は、歴史が一本の道で堪能できる仕組みになっており、沿道のそれぞれのまちが特徴を活かしてまちづくりをやっていけば、賑わっていくのではないかと気づきました。例えば、新地中華街では、日本の中の中国をクローズアップして、まちの魅力を再発見してもらう「ランタンフェスティバル」を開催しています。長崎の観光の顔である、居留地地区では、洋館を取り巻く環境や石畳の坂など、景観がとても大事であり、これを守りながらまちづくりを進めていく計画を考えています。

新潟市

万代シテイ商工連合会商店街振興組合 齋藤正行 様

新潟市景観ネットワークでは、景観講座の実施や会報誌の作成を行っています。参加団体は、サンクプロム石山商店街、協同組合にいがたあきんど塾、にいがた花絵プロジェクト実行委員会、NIIGATA光のページェント実行委員会、万代シテイ商工連合会商店街振興組合、新潟学の会、ユニバーサルカラープランナー協会、KMM(カワ・ミチ・マチ)研究所、萬代橋ファン倶楽部、新潟水辺の会、ボランティア亀田、歴史都市新潟研究会、鯛車復活プロジェクトで構成しています。新潟の方は、一緒に活動したいと考えていますので、気軽に入会してもらいたいと思います。また、今回、「開港5港の歌 ウェルカム港街」を作成しました。是非、他の4都市でも、この歌をつないでほしいと考えています。

ウェルカムパーティー

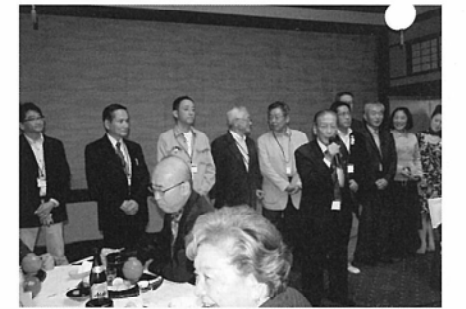
会場 鍋茶屋 3階 二百畳敷大広間
参加者数 84名

ウェルカムパーティーは、日本有数の花街として栄えた新潟ならではの食と伝統を堪能してもらおうと、新潟を代表する料亭である「鍋茶屋」で行われました。本間実行委員長によるあいさつの後、会場である鍋茶屋の高橋英司様より会場などの紹介をしていただきました。

続いて古町芸妓より、その歴史と伝統により磨き上げられた踊りを披露していただきました。踊りの後は、開催都市を代表して篠田昭新潟市長よりあいさつと乾杯のご発声をいただき、開宴となりました。芸妓さんには各テーブルを廻ってもらい、篠田市長と芸妓さんも一緒になって記念撮影をするなど、古町芸妓と楽しい時間を過ごしました。

パーティーが盛り上がってきたところで、司会者の突然の振りにより、長崎市からお越しのソプラノ歌手の原さとみさんからアカペラで歌っていただきました。その後、毎年恒例にもなっている、参加都市ごとに前に出て、代表者からあいさつを行いました。

最後には、開港5都市景観まちづくり会議の新潟開催を実現した新潟市役所の相田技監より中締めあいさつをいただき、お開きとなりました。



分科会 1

「米が奏でる景観」を探る

—川湊新潟・阿賀野川・米・酒の魅力を探る—

行程

万代シティバスセンター出発

「栗山米菓 新潟せんべい王国」(北区新崎)
職人さんによる製造工程の見学とせんべいの手焼き体験

「亀田郷土地改良区 芦沼館」(江南区)
たび重なる水害に苦んだ泥地がどのようにして
現在の豊かな農地に変貌してきたかをビデオ・資料により説明
昔の農機具や農村資料見学

昼食「割烹 ふじ田」(江南区)
新米こしひかりと阿賀野川周辺で獲れた特産品などを郷土料理で堪能

「今代司酒造」(中央区沼垂)
古くから残る木造酒蔵の見学、旅の記念に酒瓶ラベル貼り体験・試飲
最後に、歴史ある建築物を残し活用することについて、
参加者と蔵元でディスカッションしました。

新潟といえばもちろん日本一の米どころ。それは生産高という面だけではなく、毎日食卓にあがるご飯はもちろん、清酒・米菓・餅といった加工食品の分野においても、名産地としての新潟は市場で高く評価されています。そして、新潟と米との結びつきはさらに深く生活に根付いています。

どこまでもどこまでも稲穂がたなびく広い平野と多彩な米文化。新潟の「らしさ」を求めて、分科会1では農地がとけ込む景観のルーツと、米王国の豊かな米文化に触れてみました。

栗山米菓「新潟せんべい王国」見学

新潟県は全国シェアの60%以上を占める米菓王国。最初に、今では珍しい県産コシヒカリを職人が手焼きによって仕上げる製造工程の見学と、焼きたての味付けもしていないせんべいの試食。続いて参加者自らせんべい焼きをしてみます。旅の始まりはおいしくて楽しい体験から、米菓という新潟の米文化のひとつに触れてみました。立ち上る米の香りに新潟を実感したひと時でした。

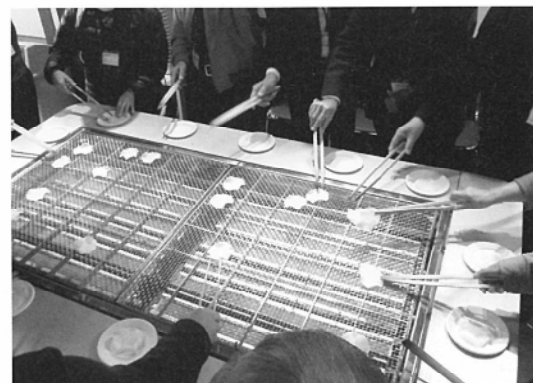
亀田郷土地改良区「芦沼館」見学

夏には緑、秋には黄金色の田園が広がる亀田郷。しかしながら、この景観を手に入れるために、永らく水との戦いを重ねてきたことは忘れ去られがちです。ほんの数十年前までは「芦沼」と呼ばれ、堤防決壊で苦しんだ低湿地帯。水利施設(大型排水機場)を整備し、乾田化に成功したこの土地の歴史をビデオ映像で振り返り、米の収穫が安定するまでの道のりを辿りました。

その後、資料館では水田で使われていた農機具や、懐かしさあふれる農村の生活用具を見学。米作りと密着した新潟の暮らしは、各都市には見られない特色を持っています。米作りは単なる生産活動ではなく、生活と切り離すことのできないもの。いわば新潟人のアイデンティティーの一つであることを窺い知ることができました。



せんべい製造工程の見学



せんべい手焼き体験中



芦沼館での資料見学



酒蔵説明中



懐かしの酒造り道具



ラベル貼り体験中



建物を見ながらディスカッション

今代司酒造見学・ラベル貼り体験

最後に立ち寄ったのが、中心部にほど近い立地でありながら古くからの佇まいを残す今代司酒造。江戸の創業から現在に至るまで新潟銘酒を作り続けてきた酒蔵です。9代目蔵元の山本吉太郎氏に木造の蔵を案内していただくと、そこには昔ながらの酒造りが伝えられていました。

ここでは清酒「萬代橋」の酒瓶のラベル貼りを体験。この開港5都市景観まちづくり会議に参加した記念に、5港口とラベルを貼っていただきました。記憶に残る新潟土産は大好評でした。

蔵内を歩き終わると、最後は歴史ある建物の保存と活用についてのディスカッション。実はちょうどこの時期、道路の拡張計画に伴って、建物の一部取壊しと改築を余儀なくされており、工事の真っ只中でした。残念ながら試飲と販売を行っている建物は解体して、酒蔵入り口部分を一部撤去し改築。さらに住宅部分であるところを曳家して移設するという大がかりなものです。そこで蔵元より移設する住居部分を今後活用していかうかのお話を伺うと、参加者から様々な活用意見が。レストラン、カフェ、塾、甘酒が飲める休憩所、交流サロン...など、興味深い意見が交わされました。まだ活用方法は決定していませんが、ぜひ完成したら景観まちづくり会議でもう一度訪れてみたいです。

現在の米王国新潟の成り立ちと食に触れた有意義な1日も無事に終了。改めて行程を追いかけてみても、新潟の中心部から田園地帯がいかに近いかがよくわかります。新潟の景観には、水との歴史、米との融合がしっかりと刻まれています。後世には建物だけでなく、こうした新潟らしい米文化もまた大切に残していきたいものです。



参加者集合写真(今代司酒造)

湊町新潟の花街の文化を訪ねて

—鍋茶屋・行形亭とその周辺の文化財を巡る—

行程	
鍋茶屋に集合	
勝楽寺	旧英国領事館跡の見学
地獄極楽小路	旧新潟刑務所の赤レンガの遺構を見学
鍋茶屋	茶屋と庭園の見学
行形亭	庭園の見学
旧齋藤家別邸	建物・庭園の見学
昼食 小三	
日和山	住吉神社宮司久我氏より往時の説明、方角石の説明
旧小澤家住宅	館長さんより説明
湊稻荷神社	宮司さんより説明
田中屋本店	笹団子づくり体験
みなとびあ	セミナー室で情報交換会

新潟は、信濃川が日本海に注ぐ河口部に展開した湊町であり、江戸時代には旧長岡藩の港として、またいわゆる「天保の改革」以後は、幕府直轄の湊として発展しました。さらに五港の一つとして開港場となって以後は、日本海側を代表する港町として展開したことはいうまでもありません。しかし、大河の河口部という地理的条件もあって、港としては必ずしも良港とはいええず、明治時代の初期にあっても絶えず港の整備を続けなければ大型の船が着岸することができなかった新潟が繁栄したもう一つの理由として、花街としての新潟の名声が全国的に広がっていたことがあげられます。すなわち、湊町新潟の繁栄は、花街としての新潟によって支えられていたといっても過言ではありません。

そこで、本分科会では、新潟を代表する料亭として現在に続いている鍋茶屋と行形亭を中心に、「花街」新潟の文化財を巡ることを通して、五港の一つとして栄えた新潟の歴史を捉えなおしたいと考えました。新潟の花街の歴史を概説したパンフレット「明治新潟の花街と文人たち」を参加者に配布し、午前9時より巡検を開始しました。参加者は33名でした。

旧英国領事館跡～地獄極楽小路

参加者は、鍋茶屋の前に集合し、人数の確認と資料の配布などを行ったのち、まず開港場となった新潟に置かれた英国領事館の遺跡である勝楽寺を見学しました。次いで旧新潟刑務所の跡に移動し、現在に残されている赤レンガなどの遺構を見学しつつ「地獄極楽小路」と呼ばれる刑務所の西側の路地を歩きました。「地獄極楽小路」は、この路地を挟んで、鍋茶屋と並んで新潟を代表する料亭である行形亭と新潟刑務所が隣接していたことから、この名が付いたものです。



午前9時より巡検を開始した



地獄極楽小路と旧新潟刑務所



行形亭の庭園と女将さんによる説明



旧小澤家住宅



湊稻荷神社での宮司による説明



田中屋本店での笹団子づくり



みなとびあでの意見交換会

鍋茶屋・行形亭見学

次いで参加者は、「鍋茶屋」に移動して茶屋や庭園を見学した後、さらに「行形亭」に赴いて庭園などを拝観しました。両者は、共に新潟を代表する料亭ですが、鍋茶屋が料亭・待合・芸者置屋が数多く立ち並んでいた花街「古町」の中心に屹立しているのに対し、行形亭は花街の中心からやや西側に離れた閑静な場所に位置し、好対照を成しています。窓から見える梅の木を中心とする庭が美しい鍋茶屋は「南辺茶屋」として文人たちに好まれた一方、松の木が美しい行形亭は「松風亭」と呼ばれて粋人が訪れました。

旧齋藤家別邸見学

新潟の花街を象徴するこの二軒の料亭を見学した後、参加者は「旧齋藤家別邸」に移動し、豪商として知られた第四代・齋藤喜十郎が大正7年に別荘として建設した近代和風建築技術の粋を集めた建物と新潟の砂丘の地形を取り入れた回遊式庭園などを見学しました。その後、明治時代より続く「小三」に移動し、昼食をとって午前の見学を終えました。

日和山住吉神社・旧小澤家住宅見学

午後の巡検は、日和山の見学から始まりました。日和山は、新潟の街を一望することができたその立地条件から、江戸・明治・大正時代を通して白山神社と並ぶ新潟の名所であり、給仕をする若い女性を抱えた茶店などが立ち並んでいました。ここで参加者は方角石などを見学し、丘陵の上に建つ住吉神社の久我宮司より往時のお話などを伺いました。

続いて訪れたのは、新潟の廻船問屋の面影を伝えている「旧小澤家住宅」です。この建物は、江戸時代の後期から新潟で商家を営んでいた小澤家の店舗兼住宅で、南北を走る「通」と東西の「小路」によって基盤の目のように整然と区画された新潟街の中心に位置する町家の典型的な姿を現在に伝える貴重な史跡です。ここで参加者は、明治時代の豪商の暮らしを偲ばせる建築物などを見学し、館長らによる丁寧な解説を拝聴しました。

湊稻荷神社見学・笹団子づくり体験

次いで参加者は、稲荷町に鎮座する湊稻荷神社を訪れました。この神社は、湊町新潟で海運業などに従事する人々の信仰を集める一方、現在の本町通十四番町・横七番町を中心とする「北廓」と呼ばれた花街からもほど近いことから、そこに生きる娼妓の信仰をも集めた神社で、回転する石造の願掛け高麗犬は新潟市の有形民俗文化財に指定されています。ここで参加者は、高麗犬などを拝観するとともに、宮司より解説を伺いました。

最後に訪れたのは、新潟の銘菓として知られる笹団子を製造・販売する「田中屋本店」です。ここでは、参加者自身が笹団子を作る体験を行い、新潟のお土産としていただきました。お店の方のご協力のもと、銘菓を自らの手で作る体験は、参加者に好評でした。

こうして以上の全行程を無事に終了した参加者は、午後3時40分、新潟市歴史博物館「みなとびあ」に移動し、旧第四銀行の建物を移築・保存しているホールで情報交換会を行いました。

本分科会を通して、参加者からは、江戸時代より続く「鍋茶屋」と「行形亭」をはじめとする新潟の花街の文化が現在に継承されていることを自分自身が感じ取ることができたという意見が寄せられ、好評でした。また、新潟と同様に開港5都市の一つである長崎や神戸の参加者からは、長崎や神戸の地にも花街の遺構が遺されていることが紹介され、活発な意見交換を行うことができました。なお当日は、NHKをはじめとする各メディアが本分科会に同行し、巡検などの様子がニュースで放映されました。

現在の新潟の繁栄にも直接につながる「開港5都市景観まちづくり会議」の素晴らしい取り組みを、新潟市や県と連携して、さらに発展させていきたいと思えます。

分科会 3

3

水と土との共生から 生まれた暮らしと文化

——日本一の信濃川が育んだ街並みと新たなワイン文化——

新潟市中心部よりバスに乗り、越後平野の田園地帯とその田園に囲まれ繁栄してきた町を訪れそこで取り組まれている景観まちづくりをご紹介します。その後、ポルドーと同じ地形・環境にたどり着き、優れたワイン作りを目指すワイナリーを訪れ、最後に新潟西港で開催されていた「水と土の芸術祭」を鑑賞しました。

行程

万代シテイバスセンター出発
車中説明(新潟の歴史&景観ガイド)

小須戸見学
小須戸町並み景観まちづくり研究会 代表 保科正晴氏

巻見学「鯛車とまちづくりについて」
鯛車復活プロジェクト 土田真清氏

カーブドッチ見学「薪小屋」にて昼食
ミニ講演「夢を植え、感動を育てる」代表取締役 掛川千恵子氏
ワイナリー見学

「水と土の芸術祭」(万代島旧水揚場)見学
ミニ講演&会場案内 プロデューサー 小川弘幸氏

バス車中にて新潟の歴史・景観ガイド

- ①水と土の景観
- ②亀田郷について
- ③砂丘地について

小須戸の町並み見学

①小須戸の概要…新潟市秋葉区の南西部に位置し、江戸時代に信濃川を利用した舟運により近郷の年貢米の集積地として栄え、1700年頃までに町建てが行われました。

②小須戸の町並み…主に切り妻妻入りの町屋からなっており概ね110年が経過し、新潟県内でも屈指の歴史的町並みであると言われています。

③小須戸での町並み保全活動…6年程前から市民有志により、町並みに着目したまちづくり活動が進められています。

- ・地元住民の勉強会
- ・町並みマップの作成
- ・町屋ギャラリー開設
- ・小・中学生による「町屋探検隊」[景観まちづくり学習]
- ・都市景観大賞「教育活動・普及啓発部門」優秀賞受賞
- ・市の助成金を活用した建物外観の改修工事



小須戸の町屋「薩摩屋」見学



小須戸の町並み見学



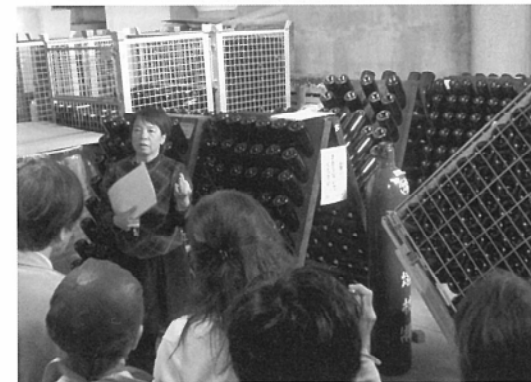
鯛の蔵見学



郷土玩具「鯛車」の説明



まき鯛車商店街見学



ワイナリー見学



万代島旧水揚場見学

鯛車のまち「巻」見学

～巻を歩けば誰もが“めで鯛” まちなか巡って幸せになろう～

新潟市の南西部、西蒲区巻は江戸時代に長岡藩によって町建てが行われた歴史あるまち。近年は、江戸末期から続くといわれる郷土玩具「鯛車」の復活をきっかけに、鯛車を地域のキャラクター、アイデンティティとして活用する市民主導のまちづくりが行われ、各方面から注目されるようになりました。「鯛車復活プロジェクト」は、2011年にティファニー財団賞「伝統文化振興賞」を受賞されました。

カーブドッチにて講演と見学

「カーブドッチが目指しているのは、『新潟で美味しいワインをつくる』という一見簡単そうで、実は難しい夢の実現です。カーブドッチは、今年で20年になります。ワインをつくるということはぶどうを育てるということ。でも、今ではワインをとりまく食や生活文化を提案する場所になりました。レストラン・マルシェ・コンサートホール…スパやホテルなど。お客様には、ワイン造りの現場に触れ、楽しさを知っていただきたい。そのためにも、より長く滞在できる場所でありたい。」その後ワイナリーを見学し、スパークリングワインの製造過程を知り皆さん感動の様子でした。

水と土の芸術祭見学

2つの大河、信濃川、阿賀野川の水、それらが運んだ土の恵みと葛藤の中で生まれた「新潟」という環境と、人間との間に生まれた、文化や歴史に光を当てる芸術の祭典です。今回のテーマは「転換点」とのこと。

☆参加者からひと言…ふりかえりシートから

- ・小須戸・巻それぞれこれまでの開港都市新潟市にない町並みが生きることに関心。巻の「鯛車のまちづくり」は板振づくりなどの町並みづくりにも発展しており、今後もっと独自の地域文化を育てていくように思えた。カーブドッチの成功は新潟にとってもよかったと思います。
- ・第3分科会の企画はこれからのまちづくりの多くの要素を見せて頂き考えるよいプログラムでした。サポートされた皆さんありがとうございました。勉強になりました。
- ・函館の市民運動は各エリアごとではなく町全体での運動になっています。エリアを狭く町単位での運動が必要と感じました。カーブドッチに家族を連れて来たい。



参加者集合写真(カーブドッチ)

オプションツアー

日時 10月27日(土) 18:00~20:00
 会場 ビアBandai
 参加者 67名

今回のツアー内容はバーベキューで、新潟のおいしい食材と、毎年恒例となっている、各都市からのお土産で皆様満足しておりました。
 交流会が盛り上がってきたところで、余興の永島流新潟樽砵の演技で盛り上がりは最高潮に達しました。さらに、この盛り上がりの流れで、急遽、森本事務局長よりミニギターの独演もありました。



代表者会議

日時 10月28日(日) 9:30~
 会場 旧第四銀行住吉町支店 2階 会議室
 参加者 17名

代表者会議では、各都市代表から、あいさつと2日間の所感を述べてもらい、その後、新潟大会アピールと次回開催都市について審議を行いました。新潟大会アピールについては、実行委員会(案)が異論なく承認されました。また次回開催都市は函館市として、2013年9月7日(土)~9日(月)の3日間と決定しました。



全体会議Ⅱ

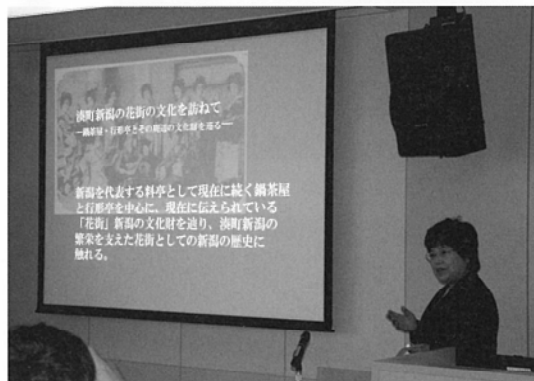
日時 10月28日(日) 10:15～11:30

会場 新潟市歴史博物館みなとびあ 2階 セミナー室

全体会議2では、まず前日の分科会の報告を行いました。分科会1は、サンクプロム石山商店街協同組合の柳澤さん、分科会2は、歴史都市新潟研究会の杉山さん、分科会3はにいがた花絵プロジェクト実行委員会の関さんから代表して報告をしてもらいました。続いて、ユニバーサルカラープランナー協会の高松副実行委員長より、代表者会議の内容の報告をしてもらい、本間実行委員長から大会宣言(次ページ参照)の発表がありました。

その後、来年の大会への引き継ぎということで、本間実行委員長から函館市の佐々木馨様へと大会旗の引き継ぎが行われ、佐々木様よりごあいさついただきました。

最後に、山口副実行委員長よりあいさつがあり、新潟大会の閉会となりました。



大会宣言

木々も色づき深まりゆく秋を感じさせるなか、景観まちづくり会議が、新潟で開かれた。

秋の新潟の空はどこまでも青く、そして高く、大河信濃川・阿賀野川では、夕日を浴びて遡上する鮭の群れ。

そして、刈り取りを終えた田んぼでは、冬の使者「白鳥」がのんびりと落ち穂を啄ばんでいる。

「新潟の『らしさ』を求めて」～過去・現在・未来へのつながり～

をテーマに3日間、ここ新潟の地で、幕末から維新へと激動の歴史の中で開港し、それぞれ固有の文化を創造してきた5都市の市民が、集い・熱き思いを語り合い・友情を深め、18回の歴史を重ねた。

昨年3月に襲った未曾有の大災害は多くの人に、自然の脅威、自然と共生する生き方を強く再考させられた。

それとともに、地域・まちにとってのコミュニティの重要性を改めて思い起こさせられた。

我々は再び原点に立ち戻り、景観まちづくりを見つめなおしておきたい。そして、我々市民が主体となって、人と人、まちの歴史、自然とが一体となった景観まちづくりについて議論を深め、未来につなげていこう。

本大会に参加した市民が、見聞きし、感じ取ったものを糧として、開港5都市がそれぞれ魅力あるまちづくりを推進し、都市の景観形成に資することを確認し、ここに宣言する。

2012年10月28日

開港5都市景観まちづくり会議新潟大会

♪ 開港5都市景観まちづくり会議の歌
「ウエルカム港街」が出来るまで

新潟大会で初の「開港5都市の歌」を斉唱することになりました。それに伴い作詩・作曲を新潟の実行委員会が担当しました。開港5都市の歌を作成するに至った経緯は、昨年の長崎大会の際に長崎市大浦青年会桐野耕一氏より、「長崎居留地男性合唱団の披露を予定していたができなかった」というお話からヒントを得ました。開港5都市景観まちづくり会議も新潟大会で18回目を迎えます。各大会では5都市のまちづくり団体関係者が、互いに情報交換をし、更なるきつなを深めるとともに、景観まちづくりのあすを考える時を共有するために開催地に集います。その集う5都市の歌があっても良いのではないかの思いがありました。そこで長崎大会の代表者会議にて、新潟市参加団体代表ユニバーサルカラープランナー協会高松氏より歌の提案がなされました。早速、新潟大会実行委員会に諮り、作詩は新潟学の会の西澤氏のご紹介で小林直司氏にお願いすることができました。とても軽やかな親しみやすい作詞で開港5都市の歌「ウエルカム港街」が出来上がりました。それを踏まえ作曲を当景観ネット会員の森本氏にお願いすることになりました。

「作曲について」

西澤輝泰氏から紹介された小林直司氏は新潟市の政令指定都市移行記念歌「ありがとう新潟」の作詞もされた方で、1月に打合せでお会いして、2月には歌詞をいただきました。5港のどこでも地元の歌のように感じられ、港街がイメージ出来る歌詞に仕上がっていました。小林さんと相談して「ウエルカム港街」と名付けました。最初は明るくテンポの良い曲を創ろうと思いましたが、歌詞をじっくり聞いてもらうためにワルツ(三拍子)にし、みんなが歌いやすいメロディーになるよう心がけました。8月の打合せ会議で歌った所、開催地名を最後に持ってきた方が良いという意見があり、歌詞を少し修正した上で、9月には自宅録音でCDを作り、大会で5都市の人が歌えるよう、4都市にはCDを送り、新潟では実行委員会の打合せ会議毎にみんなで練習しました。実際、長崎の方々には事前に練習したそうで、本番では一緒に合唱しました。ステージは私(歌、ギター)と浅井敬一さん(ベース)で演奏しました。バンド名は「水辺の怪バンド」といいます。また、新潟市の有志もステージと一緒に歌い、盛り上がりました。次回の函館大会ではどのような形で歌われるか分かりませんが、5港で未永く歌い継がれる事を期待します。



演奏/森本利 浅井敬一

ウエルカム港街

作詞/小林直司 作曲/森本利

古い映画をみるような
歴史のロマンかおる街
この道をまた歩いてみたい
扉あければウエルカム
この街で
あなたもどうぞ珈琲を
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟

はらかな沖の白い船
日本と世界つなぐ海
この丘をまた歩いてみたい
肩をたたけばウエルカム
この街で
あなたもいかががピアノ曲
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟

輝く未来降るような
あなたと私つなぐ星
この街をまた歩いてみたい
乾杯すればウエルカム
この街で
もひとついかががバーボンを
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟



Key:C

ウエルカム港街

(開港5都市景観まちづくり会議の歌)

作詞:小林直司
作曲:森本利

Musical score for 'ウエルカム港街' in 3/4 time, Key of C. The score consists of 12 staves of music with lyrics written below the notes. Chord symbols (C, F, Dm, G7) are placed above the staff lines. The lyrics are: ふる い え い が を み る よ な れ き し の ロ マ ン か お る ま ち こ の み ち を ま た あ る い て み た い と び ら を あ け れ ば ウ エ ル カ ム こ の ま ち で あ な た も ど う ぞ コ ヒ を は こ だ て よ こ は ま こ う べ な が さ き ウ エ ル カ ム ウ エ ル カ ム よ う こ そ に い が た



協賛

弁護士法人新潟第一法律事務所

食の陣実行委員会

新潟市商店街連盟

万代にぎわい創造株式会社

株式会社バウハウス

株式会社美商

有限会社新潟架設

発行日 / 2013年3月29日

編集・発行 / 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会
事務局 / 新潟市役所 都市政策部都市計画課 まちづくり推進室
TEL 025-226-2825(直通) FAX 025-229-5150

design / Creative Land 晴れ日